

# 令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名	秦野市立東中学校
-----	----------

## 1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語の質問紙では、「勉強が好き、大切だと思っている」と回答した生徒が比較的多く、条件を考えて答えを述べる問題ができています。解答を文章で書く問題では、最後まで書こうと努力しており、設問から適当箇所へ結び付けることができています生徒が多いです。	(1) 国語の解答では、問題の条件を完全に満たせない生徒がおり、問題自体の理解ができていない可能性があります。また、問題文の会話や登場人物の描写を捉えてから問題に取り組むことが難しく、解答に結び付かない課題が見られます。
(2) 数学では、知識・技能の内容が全体的に正答率が比較的高く、特に実験的要素を含む問題の正答率は高い傾向がみられました。また「データの活用」では、身近な資料を用いた問題において無回答率は低かったです。	(2) 数学では、中1・2年生時の内容が知識として定着していない内容が多く、知識が活用できていないことが多いようです。また、言葉や数、式を使って説明する問題では、解答を途中であきらめ、無解答となる生徒が多く見られます。
(3) 理科では、実験の結果が考察の根拠として十分かを検討し、実験計画を改善できる力が概ね身についています。また、他者の考察について、様々な情報を踏まえて検討し、改善する力が概ね身についています。	(3) 理科では、物体にはたらく力を矢印で表す際に、作用点を力の矢印の始点として表すことに課題があると考えられます。また、選択式に比べ、記述形式の問題の無回答率が高い傾向にあり、自らの考えを文章化して説明する機会が必要です。

## 2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響とともに校内研究の取組があり、対話的な授業に代わり、ICT機器を利用した意見交換、調べ学習などが増えました。生徒のICT機器の活用率は全国平均を大幅に超え、授業だけでなく行事やアンケートなどにも活用機会を広げる教育活動の展開が期待されます。
(2) 以前から記述形式の問題の無回答率が高いことから、日々の授業の中で自らの考えを文章化して記述する機会を増やしており、さらなる取り組みとして、生徒自らが表現したくなるような学びの場の設定や展開の工夫を検討していきます。
(3) 長期休暇での課題や補充学習を行い、生徒も自主的に参加する姿が見られました。学びの個別最適化のために個人の学習に応じた支援方法を検討し、机間支援等を行うことでよりよい声掛けをするとともに、家庭とも連携して学びを推進します。

## 3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) ICTを取り入れた授業の中に記述や紙面の筆記を取り入れ、学習用端末のタイピング記述、紙面での記述による両方の面から記述の力を向上を目指します。また、一人一台貸与されている端末を利用して、自主学習ソフトや予習・復習のできる教育プログラムなどのコンテンツを積極的に有効活用するとともに、評価にも活用することで指導への適時効果を図ります。
(2) 授業と家庭学習との相乗効果を期待し、家庭学習が定着するために、家庭学習支援やノート指導等を行うとともに、長期休暇の課題や補充学習の実施も継続していきます。
(3) 自分の考えや意見を文章で書いたり、説明したりする問題に課題が見られたので、教科指導だけではなく、様々な教育活動でのICT機器の活用を想定し、友達との意見交換に活用することによって、自分の考えを深め、自分の言葉で表現する活動を、引き続き取り組んでいきます。

## 4 家庭・地域の方へのメッセージ

・情報化社会の広がりに伴い、学校での授業や取り組みのICT化が進んでいる反面、読書離れや知識の未定着を感じています。生活習慣の定着が学びの基盤となりますので、ご家庭においても生活習慣の定着のために声をかけていただき、学びに向かう姿勢の後押しについてご協力をお願いいたします。 ・質問紙より、携帯電話の使い方について家の人との約束をあまり守ってない、約束がない生徒がいることが分かりましたので、携帯電話の使い方や家庭でのルールを話し合ってくださいと、より「かがやく東の子」を見ることができると思います。
---